



大須藤

上

謝辞 感謝の辭

早稲田大子

館長 山崎先生

の功徳を感懐する

其の功徳を感懐する

其の功徳を感懐する

其の功徳を感懐する

早稲田

先生の功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する

功徳を感懐する



尚土子揚か畫畫影影也

其功徳功徳也

得得之之也

殊更殊更は喋喋喋喋の煩辭煩辭を要要せ

景慕景慕纏纏綿綿

己己の情情をを紀紀するする人人也

已已む能能はずがが館館負負一一全全

は特特ににとと上野公園の高館をを

敬敬請請してして私私にに役役負負

の微表微表をを表表せんと約約せ

是れ本日本日の此此の難事事あり

所以所以あり

先生先生の功功徳徳也

縮め縮め早稲田大学早稲田大学にに在在り擴めめる

天下天下公衆公衆の前前にに在在り謹んんで其

を陳陳べるたの如如し

大要大要

用用紙紙をを包包む



中

大巻二其

早稲田 第一期計畫の初より

大上 開校より待たず

当局者は 特小図書館

の経営を小重きと直き

早稲田の元老 資望高き 中嶋

先生と館長と推した

先生

二 市嶋 先生 以来日夜 汲汲 眠食を忘れて

鬼集小力め 或は 或は 或は 或は

或は 書店を巡検し 或は 或は 或は 或は

歴訪し 現時實用 有教の 圖書

論を待たず 或は 或は 或は 或は

放逸 世人 野の 等 内 網羅

遺さず 曲 之 室 たり たり

三 その 圖書を 集まめらる

あま 日々 部 下の 書店

や 我 書 家 を 訪 けん

自ら 東西 小 大 奔走 せり

此 間 其 購 入 の 次第 也

此 間 其 購 入 の 次第 也



三) その圖書を収集せよ。

日本、日々の部、日本の書店
や私家蔵を訪ね

自ら東西に奔走せよ

此間其購入の次第を

(四)

圖書費が餘り多から

ず勤めを自ら書局に力

して大志を勸誘し

草書集せよ

以て高價を以て

稀なるものを得るに苦心せよ

斯くして圖書館に於て時時

又自ら出版業を従ふ

也

例(七)

圖書刊行會、早稲田

大学出版部、文明協

會等、其の類也

以て、その類也

圖書館に附せり

也

日本文庫協會等

後の東日本圖書館

協會の館長等

等、其の類也

亦、其の類也

日本

日本

公の便益を以て

高價を以て

稀なるものを

以て高價を以て

亦待

会長と一
日層濟せられ

が為め日本、
図書館協会

大成大とあり、

国の図書館

あ、要視せ

協力的事、動作

する子とあり

是、全と市嶋

先生の尽力の結

結果ありと、

会員の常子感謝

ある所あり

之れが為め、又

早稲田女子園

本館の常子

本館とあり、

協会の力子あり

大の便とあり

得たり

之れ比白、市嶋、先

生、の、は、に、力、の

結果あり

以て

結果あり

(七) 早稲田女子図書館

うねこは、時の展

覧會を聞きん

衆の便之四子

企てたりは

之れ又市場先

の企てり

を今日の盛況と違

早稲田女子図書館の地位聲望

(八) 具体的日本館の

其國建

三草の五牛の圖書は

十七萬より増し

百より満ちる

覽者は一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百

之れは皆市場先

の力あり



下、

先生より小づかき一合

先生の以上の形奉

巧妙カを想ひ山宗仰

威戴の志を御

我々一団の蒙御感謝し

先生の切徳を

其表情

の時機ふきと、遠に感

とやり、

幸々大考

今や三十年の役典の奉

あり先生有條の清

尚土上揚か、*建*心一能見

中よりけの好機と利

して、平素大の御意

と表やんとす、

今土、子之得饌を備

微物を贈る、進む

呈す

不腆不備、甚だ御意の堪はず

先生の寛容を



先生の功徳を
其衷情
の時 裁ふきまこと 遠く 憾
とやり。

今や三十年の役典の奉
幸の大事

あり 先生の清徳の満
尚土工 揚かえ 建心 龍 現る

中より けの好 裁と 利
して、一平 妻士の 謝意

と表せん とす、
今 士、子 之 得 饌 を 備

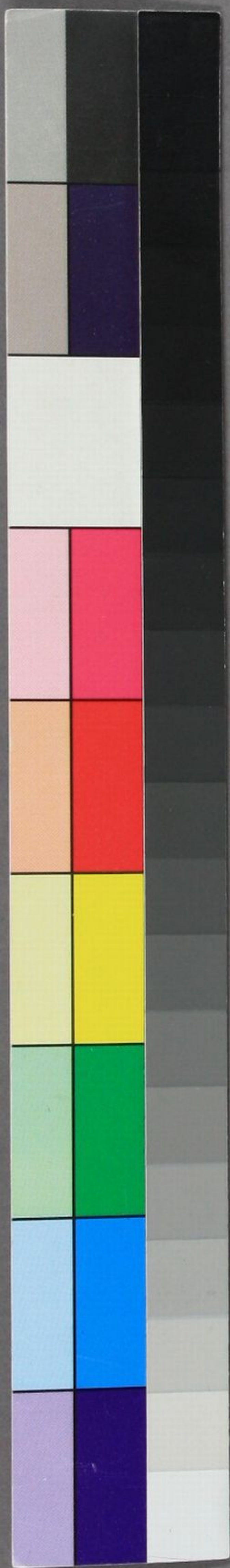
へ 微物を 贈る、 進む
呈す

不腆 不備 甚だ 謝意 堪へず
は 身 子 堪へず

休む 北 是が 先生 の 寛容 あり
は 先生 の 寛容 あり

大正二年 癸丑 十月廿日

早稲田図書館
員一人



卷之二
 卷之二
 卷之二
 卷之二



東京府下早稻田

早稻田大學圖書館

電話一三四〇番
町番五〇九番

特別

14

1919

942